

保育士としての喜び



東町中 中村 理枝子

保育士という職につき、気がついたら三十年が経っていました。その間、私自身も子育てをして、子どもが育っていく楽しさや驚き、眠れないような大変さも経験してきました。子ども時代は人生にとってかけがえのない幸せな時であり、土台を作る大切な時間だということも子育てをしながら感じてきました。

話しかけても言葉が返ってきませんでしたが、私に親しみを覚えてないのか、様子を見ている感じで、なかなか近寄ってきません。保育士として自分が試される大きな壁でした。

どうすればその子と信頼関係が持てるのか。そこで、私はその子を叱らないようにしました。もちろん、いたずらはどんどんします。でも「そういう事もあるよね。」と接してきました。

子どもに変化が

半年も経ったある日「先生僕いたずらするつもりじゃなかったのに、いたずらしちゃった。」と初めて自分から話しかけてくれました。私は驚きと喜びを隠しつつ「そう。いたずらするつ



楽しい給食

もりじゃなかったんだ。じゃ先生も一緒に謝るから、お友達にごめんねをしようか。」
いつの間にか、子どもらしい素直な目になっていました。お母さんが「あの子、先生が大好きだと言っています。私もわが子を強く抱きしめています。」と仰ってくれたことは保育士としてかけがえのない喜びでした。
「抱っこしよう」「うん」出会って半年後にやっと、その子を抱くことができました。私は自然に泣いていました。子どもも私も一緒に壁を乗り越えたのでしょうか。



お姫さまごっこ

一緒に壁を乗り越える喜び

私が子どもと過ごせる時はわずかです。でもその中で、いくつかの壁は一緒に越えてあげられるかもしれません。保育士はかけがえのない子ども時代を、一緒に過ごす仕事です。

一人一人に答えがあり、その答えにたどり着くのに時間がかかる難しい仕事だと思えますが、子どもと共に「幸せだなあ」と思える日々を、過ごしたいと思っています。

SAKEと幸せをつくる



御田町 近藤 昭等

三月に起きた震災によって多くの方が、日常の生活や物の価値観というものを考えさせられたのではないかと思います。私はこの下諏訪町で日本酒を醸造させていただいておりまして、日々生活する中で、「お酒」という存在を改めて考えさせられました。もしかして、生きる上で「無くても良いもの」ではないだろうか。

衣食住など必要なものから優先順位を付けていけば、お酒はどうだろうか？など様々なことを考えさせられました。

お酒は必要なもの

古来より「文明の栄えるところにはお酒あり」という言葉があるように、今も昔もお酒は人々に必要なものであると思います。日常の張りつめた緊張感や仕事でのストレスなどを解消するには、いろいろな方法があると思いますが、お酒も大切な存在であると思います。

若い世代のアルコール離れ

近年は、アルコール離れが若い世代を中心に進んでいます。戦後日本が復興する中、先輩の皆さんは精一杯仕事をし、夜はお酒を飲み、明日の英気を養い、現在の日本を作り上げてくれました。消費量が表しているように、日本酒が断トツ一位でした。しかし、ビールや酎ハイなどアルコールの多様化により日本

酒は消費量が減り、近年は生活そのものの変化により、アルコール飲料を飲まずともよい、という状態のようです。

癒されるお酒

時代が変わる中で、日本酒も変化をしていかねばと思います。「酔うためのお酒」から、「飲む方が癒されるお酒」になっていかなければいけないと思います。そもそも、世の中に必要とされるものは、人々を幸せに、便利に、豊かにするものが真の必需品なのでしょう。

「SAKEと幸せをつくる」古い歴史ある日本酒の蔵として、地域の皆様に本当に必要とされる日本酒を醸造していきたいと思えます。



心のこころ

東日本を襲った未曾有の災害の発生から、三カ月が過ぎようとしています。被災した方々が、一刻も早く平穏な日常を取り戻すために、遠く離れたこの地から、微力ながら力添えできればと思いを巡らせています。

一方で、明日は我が身という不安が心の中に立ち込めます。この諏訪を含む地域も、いずれは大規模な地震に見舞われると言われていますし、梅雨のこの時期には、五年前の豪雨災害のことが思い出されます。しかし、不安がっているだけでなく、避難経路や家族との連絡方法を確認するなど、平時だからこそ出来ることをしておく必要があると改めて感じました。

自然は時として、人知の及ぶようなない災厄をもたらします。これに対して人間が物的に抗うには、やはり限界があります。最後に大切なのは、常日頃の一人一人の心構えと、「隣近所」的な地域の結びつきなのではないかと思えます。(田中)